

『ロシア史研究』執筆要領

1. 数字の書き方

- a) 数字はアラビア数字ではなく漢字・縦書きとし、「億」「万」だけ挟み込む。「平成二八年一二月一日時点での文京区の人口は、二一万三九〇九人である」。しかし、概数の場合は「百」「千」を用いる。「百人以上の死者が出た」「死者総数は一一七名に達した」。
- b) 年、月、日付も漢字・縦書き。「一一月」であって「十一月」ではない。例外は「十月革命」「ドイツ十一月革命」「十月詔書」など、固有名詞の一部である場合。

2. ロシア語文献の書き方

<原則>

著者名は斜体。最初に姓、その後イニシャル、イニシャル間にスペースを入れる。

本や論文全体を指す場合は頁数不要。英語や日本語文献も同じ。

【初出の場合】

I. 本

著者名. 書名. 出版地, 出版年. C. 頁.

[出版社を書くかどうかは任意。出版社も書く場合、出版地との間にコロン]

例) *Гайда Ф. А.* Власть и общественность в России: диалог о пути политического развития (1910–1917). Москва, 2016. С. 370–409.

II. 雑誌論文

著者名. 論文名 // 雑誌名. 巻号. 出版年. C. 頁.

例) *Изгоев А. С.* О буржуазности // Вестник Партии народной свободы. № 1. 1917. С. 8–9.

III. 論文集論文

著者名. 論文名 // 書名. 出版地, 出版年. C. 頁.

[編者名を書くか書かないかは任意]

例) *Герасименко Г. А.* Общественные исполнительные комитеты в революции 1917 года // 1917 год в судьбах России и мира: Февральская революция: От новых источников к новому осмыслению / Под ред. П. В. Волобуева и др. Москва 1997. С. 155–156.

VI. アーカイブ史料 (アーカイブ名は、2 度目以降は略号)

アーカイブ名. 史料の番号.

[最初のみフルネームと略号。Ф. Оп. Д. Л. などは大文字で始まるものとし、ピリオドで結ぶ]

例) Российский государственный архив литературы и искусства (РГАЛИ). Ф. 389. Оп. 1. Ед. хр.

46. Л. 258.

<注意点①>

出版地略号 M. と СПб. は認めない。英語の場合、ニューヨークがどんなに有名でも、出版地として NY と書くことはありえない（州の略号としてのみありうる）。また、ウクライナ研究者が、キエフを K. と書くことを認めると要求するかもしれない（ソ連時代はそうだった）。

<注意点②>

複数ページの場合、英語・ロシア語では、最初頁と最後頁の間に n ダーシュを使う（ハイフンで代用しないこと）。

【2 度目以降の言及】

Указ. соч. は使わない（同様に英語の *op. cit.* や日本語の「前掲」も使わない）。ただし同じ文献を続ける場合、Там же を用いるのは可。

著者名・書名・論文名の最初の数語. С. 頁.

〔著者名は通常のロシアスタイルと違って姓のみ。イニシャルは繰り返さない〕

例) *Гайда. Власть и общественность. С. 371.*

3. 英語文献の書き方

<原則>

著者名は名・姓の順で表記。民族帰属のため微妙な場合はオリジナルにある通り。ミドルネームがある場合も原本に即して表記。

I. 本

著者名, イタリックの書名 (出版地: 出版社, 出版年), p./pp. 頁.

〔出版地は複数ある場合でも、挙げるのは原則一箇所のみ。出版地自体、省略するのも可。〕

論文集論文も同じ〕

例) Michael Cherniavsky, *Tsar and People: Studies in Russian Myths* (New Haven: Yale University Press, 1961).

II. 雑誌論文

著者名, “論文題名,” 雑誌名, 巻数: 号数 (出版年), p./pp. 頁数.

例) Charles Maier, “The Politics of Productivity: Foundations of American International Economic Policy after World War II,” *International Organization* 31: 4 (1977), pp. 613–615.

III. 論文集論文

著者名, “論文題名,” in 書名 (出版地: 出版社, 出版年), p./pp. 頁数.

〔論文集の編者名を入れるかどうかは任意〕

例) Ian Jackson, “Economics and the Cold War,” in Richard Immerman and Petra Goedde, eds., *The Oxford Handbook of the Cold War* (Oxford: Oxford University Press, 2013), pp. 50–60.

【2 度目以降の言及】

著者姓のみ, “本または論文名の最初の数語,” p./pp. 頁数.

例) Maier, “The Politics of Productivity,” p. 613.

4. 日本語文献の書き方

I. 本

著者名〔翻訳者を入れる場合は、著者名の後に丸カッコで括って入れる。論文の場合も同じ〕
『書名』出版社、出版年、頁または章。

例) アレクセイ・ユルチャク (半谷史郎訳) 『最後のソ連世代——ブレジネフからペレストロイカまで』みすず書房、二〇一七年、五一—五五頁。

II. 雑誌論文

著者名「論文題名」『雑誌名』巻号、出版年、頁。

例) 竹中浩「帝政期におけるロシア・ナショナリズムと同化政策——沿バルト地域のロシア化を手掛かりにして」『日本政治学会年報政治学』第四五巻、一九九四年。

III. 論文集論文

著者名「論文題名」編者名〔3 名以上の場合は 1 名のみを挙げて「ほか」とする〕『書名』出版社、出版年、頁。

例) 水野博子「「マイノリティ」を「保護」するということ：国際連盟によるシステム化と支配の構図」高橋秀寿・西成彦編『東欧の二〇世紀』人文書院、二〇〇六年、三五—六〇頁。

【2 回目以降の言及】

著者名〔姓だけ〕『書名の最初の数語』頁。

例) ユルチャク『最後のソ連世代』三九頁。

著者名 (姓だけ)「論文題名の最初の数語」頁。

例) 水野「「マイノリティ」」三五頁。

5. インターネット

各言語の雑誌論文の表記法に準じて執筆者名・標題などを書き、URL を付す。公開日が記されている場合はそれを書く。

例) *Юрьева Д.* Пестрый диагноз: Что думают поляки о Сталине, Булгакове и Басте // Радио Свобода. 5 декабря 2020 г. <https://www.svoboda.org/a/30984447.html>

6. その他

- 上記以外の言語については、キリル文字文献はロシア語、ラテン文字文献は英語、漢字文献は日本語の場合に準ずるが、細部は著者に一任する。
- グルジア文字、アルメニア文字、アラビア文字などの特殊文字は、標準的な方式でラテン文字に翻字する。